

先進事例 紹介

消防の広域化

消防の広域化により政令都市並みの消防本部誕生

埼玉県 埼玉西部消防局

管内の概況

本組合は、埼玉県の南西部に位置し、管内構成市は所沢市、飯能市、狭山市、入間市、日高市の5市となっています。この地域は東京都心から30キロメートルから50キロメートル圏に位置しており、外秩父（そとちちぶ）山地から、高麗・加治・狭山などの丘陵を経て、東端の武蔵野台地へと続く豊かな自然に恵まれた地域です。

管内人口約78万8千人、面積約406km²に1本部、5署14分署を配置し、消防用車両75台、職員864人（平成25年4月1日現在）で、災害に対応しており、全国で18番目、組合消防では最大規模で政令都市並みの消防本部となりました。

広域化に至る経緯

平成18年の消防組織法の一部改正に基づき、埼玉県では平成20年3月に「埼玉県消防広域化推進計画」を策定、県内7ブロックの広域化対象市町村の枠組みを示し、埼玉県消防広域化第4ブロックとして所沢市・飯能市・狭山市・入間市・日高市の5市の枠組みが示されました。

構成5市は、消防を取り巻く様々な環境のもと消防責任を十分果たしていくための有効な手段としての消防広域化を検討する「埼玉県消防広域化第4ブロック協議会」を平成22年1月に設立し、様々な検討を行ってきました。この協議会では、広域化後の将来ビジョンとして策定した組合市

合意による「埼玉県消防広域化第4ブロック広域消防運営計画」、これに基づく経費検証やメリット・課題の検証を行い、その結果消防の広域化が組合市の住民に、より一層のスケールメリットを確保できるとし、消防の広域化について合意されました。その後議会や市民に説明を行い、十分な理解のもと平成23年12月の構成市各議会で「埼玉西部消防組合規約」が可決され、その後1年3ヶ月の準備期間を経て平成25年4月1日に当組合が設立されました。

管内図





管理者・藤本所沢市長

広域化の効果

広域化による本部機能の統合により、現場職員を60人程度増強することができ、初動体制の強化が図られました。

従来の建物火災における出場体制は、第1出場で消防ポンプ車数が3台から5台であったのに対し、広域化後は9台まで出場可能となり、消火活動の充実に加え、指揮体制、活動支援や安全管理体制など、より一層充実したものとなりました。同時に広域化前に課題であった第2出場以降の体制も強化されております。

さらに高機能指令装置の導入により直近方式が採用され、特に市境周辺では現場到着時間の短縮が大いに期待されるところです。

現在の取組

従来独立した各市の体制から、当組合と各市の連携など様々な課題に取り組む必要があることから、定期的に次の会議を開催しております。

1 企画調整委員会

組合市の政策担当課長及び消防局課長等で構成され、消防組合の組織及び財務に関する調整を行います。

2 埼玉西部消防組合財務調整会議

組合市の財務担当課長及び消防局担当課長で構成され、消防組合の予算及び決算など財務運営に関する特定の事項を審議します。

3 埼玉西部消防組合構成市防災担当者連絡会議

組合市の防災担当課長及び消防局担当課長で構成され、消防組合と組合構成市との災害時の円滑な連携を保つことを目的としています。

まとめ

当地域での消防の広域化は広域化ありきではなく、広域化することが住民のために必要か否かの検討から進められました。

広域化前の消防本部はいずれも管轄人口が10万人以上の消防本部でした。中でも所沢市については、当初国の広域化の基準である管轄人口30万人を越える消防本部でしたが、検証によると様々なメリットがありました。

当組合は、一つの地方公共団体としてはまだまだ完成したとは言えませんが、常に住民への消防サービス向上の為、広域化したことによるメリットを最大限活用し、政令都市並みの規模にふさわしい組織を作っていきたいと思っております。



同時に発隊した高度救助隊員による構成市市長への宣誓